
平成 30 年度 交通に関する弥富地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 7 日（木） 14：00～15：30

場 所：弥富交流促進センター

事務局：萩市、須佐総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 31 名

報道関係：萩ケーブルネットワーク



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：地域内の輸送は、弥富でっぴん会という形で輸送支援を行っている。課題は、運転手の確保。誰もが運転できるのではなくて、登録したドライバーだけ。ただ、担い手は少ない。制度があっても実際の運行は難しい部分がある。急な運転の要望には運転手が対応できない。社協としてはそのような課題を認識している。

事務局：須佐地域では、1 台の車両（セレナ）を弥富に置いている。担い手確保は大きな課題と思っている。様々な移動手段を検討して、そのエリアの移動手段をどう考えるか、それがぐるっとバスなのか自家用有償旅客運送なのか検討したい。方法としては、住民の支えあい交通、ぐるっとバス、自家用有償旅客運送などを組み合わせていくことを考えている。

参加者：でっぴん会が弥富地区の移動を支えるというのは分かる。しかし、ニーズが増えると、車両 1 台での対応は難しい。今後、ぐるっとバスのデマンドでこまめにニーズに対応することが望ましい。基幹路線については、ある程度行政サイドで対応してほしい。地域内は住民が対応ということは分かるが、便の増加に対する対応が困難。運転手確保は難しい。ボランティアの方の中には、自分の仕事を犠牲にして運転さ

れている方もいる。そのあたりを考慮してほしい。

事務局：担い手確保は大きな課題。でっぴん会だけで交通空白地対策は到底できない。ぐるっとバスもあるが、例えば自治会で自家用有償旅客運送をするなど、あらゆる手段をニーズに合わせて対応できないか考えている。足の確保という観点で、利用しやすい体系を考える。自家用有償旅客運送も含めて対策を考えていきたい。

参加者：例えば、交通弱者を車に乗せてあげて、謝礼を出すという対応ができるとは、具体的にはどういうことなのか。

事務局：これまで安全性確保や安心感から運輸局へ届出をして許可を受けた事業者が交通事業を担ってきた。しかし、過疎地域に対しては、NPO や自治会等で自家用有償旅客運送として登録すれば、国が定めている講習を受けて運行主体になることが可能。今は隣近所の助け合いでやっていることに對し、任意で謝礼を払うということは道路運送法の届け出は必要ないがあくまで自己責任。ただ、あらかじめ輸送に対する金額が決まっていない、あくまで自発的なものでなければならない。その他ボランティア活動としてやる場合は、実費相当に関しては許可が必要ない。いずれにしても住民による支えあいがあれば理想だが、安心感という観点からグレーの部分を使うよりは交通事業者を利用した方が安心である。実際にはグレーの部分の判断は難しいため、事前に運輸局に相談する必要がある。自家用有償旅客運送の手続きが必要なのかそうでないのかの判断は必要だが、昨今は過疎の地域では自治会などでも、運行主体として登録できるようになった。コミュニティとして支えあいで足を確保できればそれも移動手段の確保だが、自己責任となる。

広域幹線へつなぐまでの足、役割分担を考え、きめ細かなサービスは住民の方が関わる形で、行政と住民が一体となって考えていきたい。

本計画は本年 12 月に策定を目指しているが、できる部分は随時取り組んでいきたい。いずれにしても方向性を定めて、出来るところから始めていきたい。

参加者：極論を言うと、どこに住んでいても自動車が無くても住めるようになるということか。ぜひそうしますと言ってほしい。

事務局：そのような形を目指している。その手法として、交通事業者だけでなく様々な担い手ができればと思っている。

参加者：弥富地区では、ここまでは行政で担う、ここからは住民で担う、という線引きのようなことを決めたいと感じたがいかかがか。

事務局：現状は、市が路線バスの欠損補助もぐるっとバスもやっているが、いろんな担い手を組み合わせて交通体系を確保することを考えたい。

参加者：今後も意見交換会をやるのか。

事務局：網形成計画の策定に関しては今回だけである。具体的な事業推進の段階では、住民の皆様と連携を取りながらいろいろお話させて頂きたい。

参加者：困っていることは今回どんどん言わないといけなということの良いか。

事務局：ぜひこの場でご意見を頂きたい。

参加者：ぐるっとバスの時間が不定期で、ある時間に行きたくても火曜日の 2 便は小川方面であり、弥富方面の便はなく、救急車を呼ぶほどではないが診療所に行きたいという方がいた場合に送迎してあげるケース、もしくは土曜日に急に体が痛くなったが診療所は空いてないので菰か益田に送迎してあげるケース、があった場合、白タクのようになるがそれはいいのか。

事務局：あくまでお互いの気持ちであり、謝礼の強要はいけない。善意の謝礼や近所の助け合いは運輸局の許可はいらぬ。ぐるっとバスの時間帯、エリアについては、診療所の受付時間に合わせてあるが、今後利便性向上のため時間や便数について再検討しなければならない。制限を緩和できれば利便性は上がると考える。今後診療所の先生の診療曜日等の都合を鑑み改善策を考えたい。

参加者：ぐるっとバスは診療所のためのバスなのか。

事務局：そうではなく、お買い物などでも自由に利用いただける。

参加者：いずれにしても住民の不定期なニーズに対して対応できる体制は必要。定時定路線では使いづらい。地域としては組織的な受け口を設け、相互扶助による乗合も必要だと思うが、ある程度、行政から財政的な支援が無いと難しい。

事務局：移動ニーズにどう対応していくか、行政としても住民団体が自家用有償旅客運送をやっていくということに対して支援する。バスの貸し出しや燃料費などの経費は市で支出して、住民の登録ドライバーに運転をお願いする仕組みも考えられる。ボランティアについては限界があることから、自家用有償旅客運送を考えていく必要がある。弥富地区のぐるっとバスは3エリアの区分があるが、このスタイルも再検討する必要があると考えている。なお、ぐるっとバスのチラシは12月に全戸配布している。運行の地区と時間が決まっています長時間お待たせしご不便おかけしているが、そのあたりも今後改善を検討していきたい。地域毎にぐるっとバスのシステムは様々だが、より利便性上がるように、使いやすいぐるっとバスの在り方を検討したい。改善できるところはできるだけ早く改善していく。利用者が少ないがその要因を今回のご意見も踏まえて考えたい。

参加者：ぐるっとバスの時間をみると、午後便を利用したら、帰りの便が無いので、帰りの便をドライバーに交渉できるのか。

事務局：それは難しい。

参加者：ぐるっとバスの詳しい使い方を教えて欲しい。

事務局：先日、須佐地区の民生委員の方々に、寸劇形式でぐるっとバスの使い方講習が実施された。弥富地区も3月に予定されているため、ぜひご参会頂きたい。3月12日に弥富でっぴん会で実施される。

参加者：ぐるっとバスは弥富地区だけの移動なのか。

事務局：弥富地区だけである。弥富から須佐までは路線バスがあるので、バス事業者との調整があり、ぐるっとバスで須佐に直接行くのは難しい。

参加者：先日、ぐるっとバスの運転中止という放送が地区内で流れていたが、どういうことか。

事務局：運転士が確保できないときは止むを得ず中止して、住民の皆様になるべく早くお知らせするように放送している。

参加者：江崎や須佐へ週に1回でもぐるっとバスで行くことはできないか。路線バスは乗っても帰りの時間帯に良い便が無い。

事務局：路線バスへの接続の問題やぐるっとバスの利用低迷について、広域幹線への接続という目的は保ちつつ、路線バスの代替手段についても考えていきたい。

参加者：鉄道へのダイヤの接続ができていない。

事務局：鉄道とバスの接続についても考えていきたい。広域幹線や、目的地まで乗り継いで行ける環境を整えたい。

参加者：須佐までの防長交通は朝、昼、夕方だが、中間に1便追加は無理なのか。循環しているのはいいが、本数の少なさはどうにかならないか。

事務局：須佐・田万川循環線について、防長交通の車両は2台あり、できる限り運行していただいている。今後どのような運行ダイヤがいいのか、効率的で利便性も上がる運行方法はないか、考えていきたい。路線バスなのか別の手法なのかも含めて、改善の余地があると思っている。

ぐるっとバスの利便性向上も検討している。待ち時間をできるだけ少なくなるような工夫を検討したい。

今後の改善は本日いただいたご意見を踏まえてできることからやっていき、高齢者の移動手段確保を進めたい。

参加者：路線バスのステップが高いため、高齢者は足が上がりずらいと言っていた。

事務局：ノンステップバスの導入が進んでいない状況もあるが、台を置くなどできる工夫を考えていきたい。

参加者：ぐるっとバスの運休の件は、市の職員が対応するという方法はできないのか。

事務局：現在、市の職員が運転していて、運転手が休み、日によっては代わりの方もいないため運休になる。できるだけご不便をかけないようにしたい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見をありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上